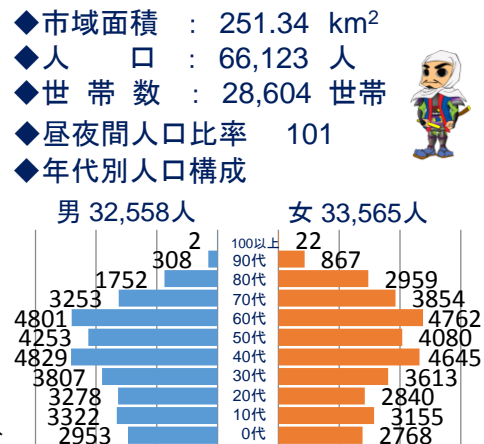


本市では2022年度末の北陸新幹線敦賀開業に向けた受け皿づくりとして、官民連携による金ヶ崎周辺の整備により、敦賀港エリアの更なる観光拠点化を目指しています。

敦賀市概要 (2018.6.30時点)



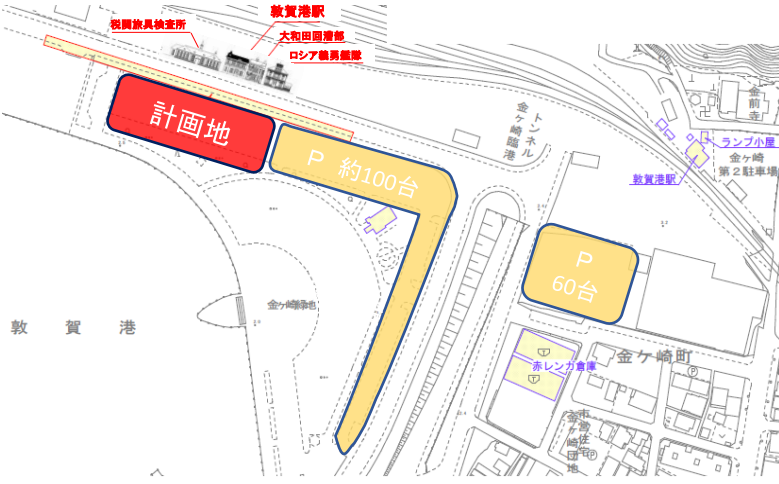
◆北陸新幹線開業前後の所要時間

- ①金沢間 84分⇒約45分(未定)
- ②長野間 149分⇒約102分
- ③大宮間 204分⇒約161分

◆近隣主要都市への車両移動所要時間

- ①名古屋約90分 ②京都約90分 ③大阪約120分

【詳細次頁】計画地敷地図と計画地周辺の将来イメージパース



敦賀市中心市街地図



【詳細次頁】計画地周辺の整備<金ヶ崎周辺施設整備基本計画>の概要

- 実施する予定の事業
 - 資料館『人道の港敦賀ムゼウム』の整備
 - ・杉原千畝の発給した通過ビザにより逃れたユダヤ人は敦賀に上陸。
 - ・一連の歴史や敦賀の人々が行ったおもてなし等を発信する施設。
 - ・施設外観は大正期に実在した敦賀港関連施設を復元する。
 - 鉄道遺産(旧敦賀港線)の活用
 - ・蒸気機関車乗車体験等が可能となる施設の整備方針を定める。
 - 物販・飲食機能の整備
 - ・上記の公共施設整備に合わせた民間活力の参入を目指す。
- パブリックコメントの結果(サンプル数58件)
 - ◆ 計画の印象は良い 74%
 - ◆ 金ヶ崎に必要な機能(複数回答)

機能	割合
飲食機能	60%
物販機能	34%
宿泊機能	22%
体験機能	24%
休憩施設	39%

3 整備スケジュール

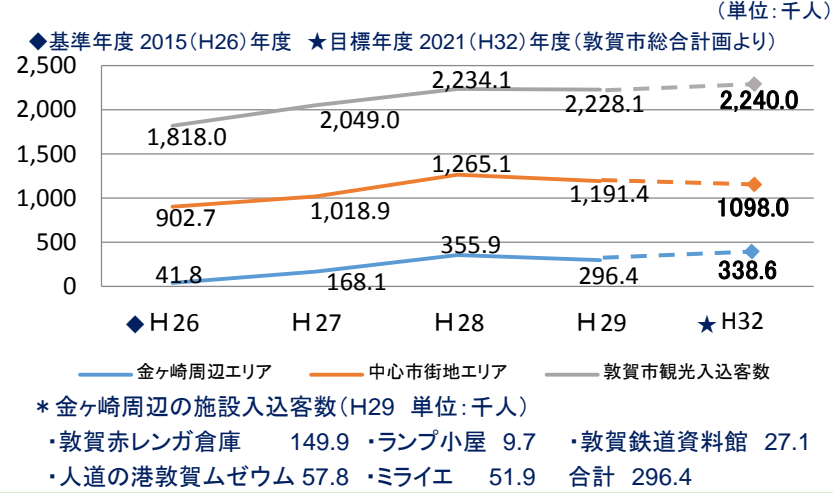
	2019	2020	2021	2022	2023
(1) ムゼウム整備	工事・オープン準備	供用開始			
(2) 鉄道遺産		測量・設計等	工事等		供用開始
(3) 物販・飲食		ニーズ調査・募集	工事等		

<<参考URL: 敦賀市HP>>

- 金ヶ崎周辺施設整備基本計画の詳細
http://www.city.tsuruga.lg.jp/about_city/news_from_division/sangyoukeizai_bu/s-machi/kihonkeikaku-sakutei.html
- パブリックコメントの結果詳細
http://www.city.tsuruga.lg.jp/about_city/news_from_division/sangyoukeizai_bu/s-machi/kanegasaki-public.html



金ヶ崎周辺及び本市の観光入込客数(数値目標等)

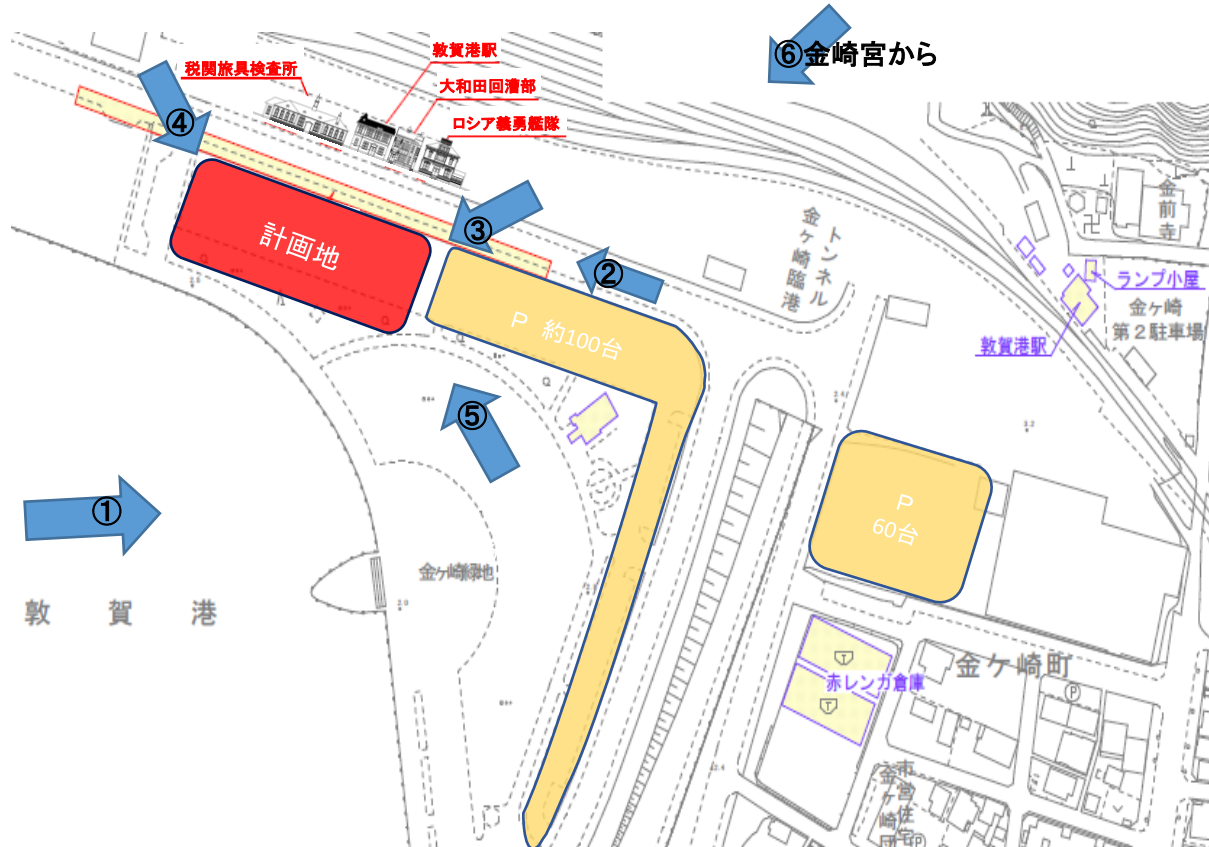


金ヶ崎周辺における民間による取組内容

- 民間団体「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会
 - ・観光客の激減する冬季における誘客イベントの実施。
 - 夜の景観を演出。
敦賀港イルミネーション ミライエ
11/3~12/25(51日間) 18:00~22:00
動員数 52,000人(2017年実績)
- 敦賀国際文化交流フェスティバル実行委員会
 - ・港まち敦賀の関係諸国(ポーランド、リトアニア、オランダ、イスラエル等)の文化に触れるイベントを開催。
 - 敦賀国際文化交流フェスティバル2018-敦賀「人道」の歴史と文化交流の継承-
11/3~11/4
 - ・団体構成員 NPO法人THAP(タップ)、赤レンガ倉庫指定管理者(株)丹青社 他

計画地敷地図と計画地周辺の整備《金ヶ崎周辺施設整備基本計画》

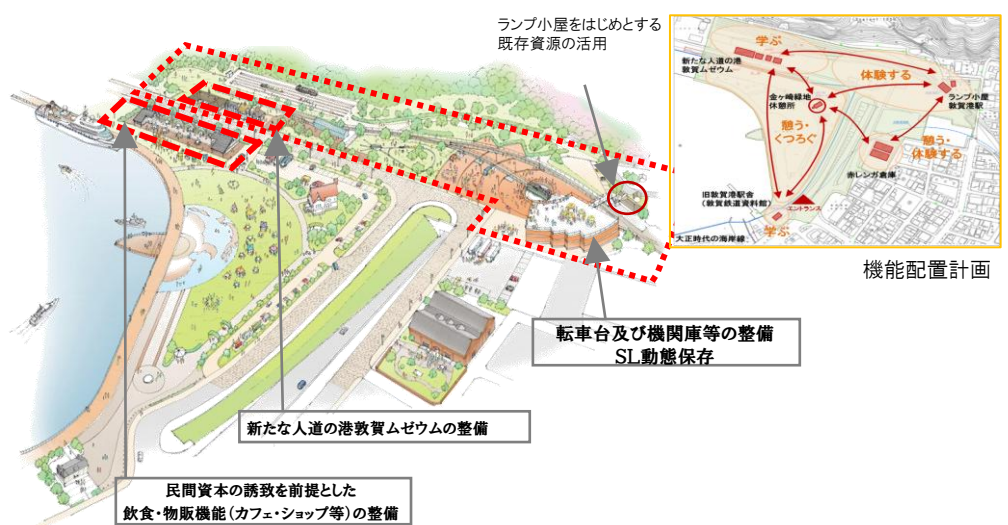
1 計画地敷地図



現況写真



2 計画地周辺の整備《金ヶ崎周辺施設整備基本計画》



(3) 人道の港敦賀ムゼウムの整備方針等

- 市民が気軽に利用できるとともに、学習旅行等、団体観光客を十分に受け入れられるようにする。
- エリア内の既存施設と役割分担し、相乗効果を生み出す。
- スムーズな動線でストーリーに連続性を持たせるとともに、時系列でテンポ良く、解りやすく伝えられるようにする。
- シアター等、見応えのあるコンテンツを整える。

(4) 鉄道遺産の整備方針等

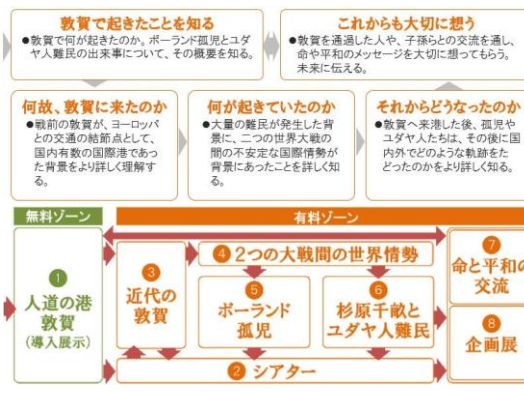
- ランプ小屋や軌道等、エリア内の既存設備を有効活用する。
- 市内にある眼鏡橋等の鉄道遺産や北陸本線トンネル群等、市外の鉄道遺産とも連携し、回遊性を生み出す。

◆ 転車台と車輛の動態展示(福井県で検討)

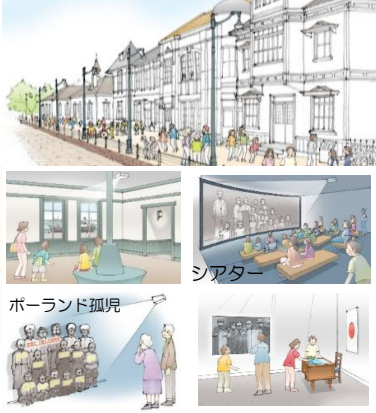
- 福井県では平成29(2017)年度に、金ヶ崎における転車台と再生エネルギーによるSLの動態展示の活用可能性調査を行った。
- 調査の結果、敦賀駅の転車台は一部分の部品を新品に交換すれば再利用できることや、太陽光パネルの設置で発生するエネルギーにより、客車を牽引したSLを330mの区間で走行させることが可能なことが明らかとなった。

(5) 回遊性の創出

- ① エリア内
 - 金ヶ崎周辺エリアを面的に整備して一体感を形成する。
 - 金ヶ崎宮から見下ろすと明治後期から昭和初期の敦賀港の姿がわかるような仕掛けを施す。
- ② 中心市街地へ
 - ユダヤ人難民が敦賀港から敦賀駅まで通ったルートを顕在化。
- ③ さらに広域へ
 - 北陸本線トンネル群等、近隣の関連自治体とも連携し、広域の回遊性を生み出す。



イメージ



(1) 基本的な考え方

- 既存資源・取り組みの有効活用
- 古きよき敦賀の可視化
- 人道の港ブランドの確立

(2) エリア全体で行う事業

- 人道の港敦賀ムゼウムの移転・拡充
- 新たな鉄道遺産の整備と活用
- 物販・飲食機能の整備(民間活力導入)
- エリア内外の回遊性向上



図：ユダヤ人難民の主な推奨移動ルート (左) 旧地図 (右) 現在の地図

